

男女共同参画の視点からの防災研修

内閣府男女共同参画局

平成28年6月

研修の目的

- ✓ 地域の災害リスクを軽減するためには、男女共同参画の推進が必要不可欠であることを理解する
- ✓ 防災における男女共同参画を推進する上で、行政が果たすべき役割は何かを考える
- ✓ 防災・危機管理担当と男女共同参画担当がどのように連携・協働できるかを考える

男女共同参画の視点からの防災研修

座学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

防災とは

「災害を未然に防止し、災害が発生した場合における被害の拡大を防ぎ、及び災害の復旧を図ること」（災害対策基本法第2条）

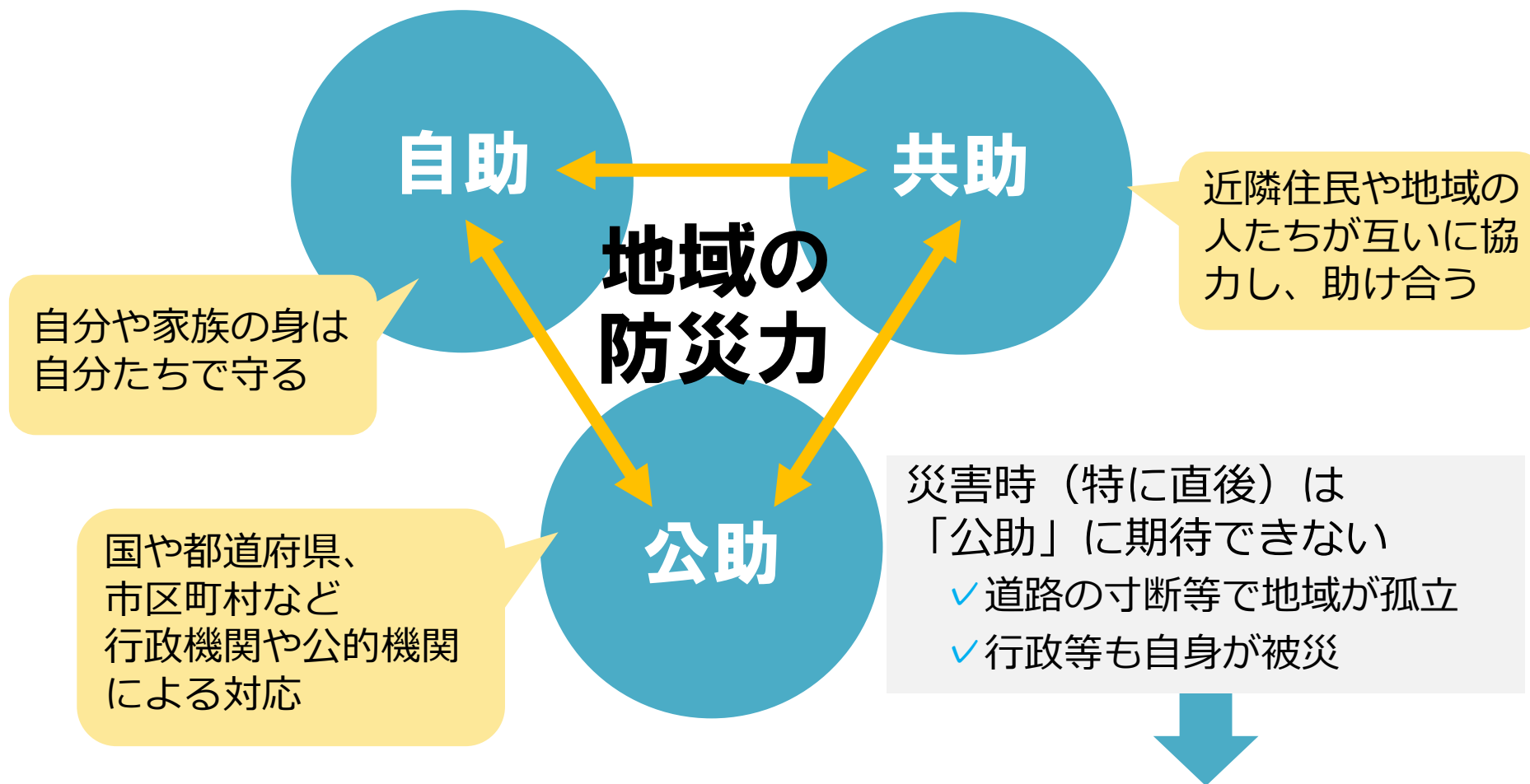
「災害が発生しやすい自然条件下にあって、稠密な人口、高度化した土地利用、増加する危険物等の社会的条件をあわせもつ我が国の、**国土並びに国民の生命、身体及び財産を災害から保護**する、行政上最も重要な施策である。」（防災基本計画第1編第2章より抜粋）

国土を守る

国民の生命・身体・財産を守る

社会の秩序維持と公共の福祉の確保

地域の防災力と自助・共助・公助



- （特に直後は）**共助**による災害対策が重要
- 活動の中核となるのが、**地域防災リーダー**の役割

共助を機能させるには？

地域の人々の
「多様性」
を理解する

協議
(話し合い)



地域の人々が
「力」
= 労働力
知恵・知識
情報網
を発揮できる
ようにする

協働
(力合わせ)

地域の人々とは？ | 多様性・ダイバーシティの視点から

性別

(すべての属性にかかわる)

高齢者

障がい者

子ども

外国人

単身者

傷病者

<参考> **要配慮者** (災害対策基本法第8条より)

高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者

男性と女性で異なる 災害が与える影響

生物学的な違い

生まれつきの性別

社会的・文化的に形成された違い

社会通念や慣習の中で、社会によって作り上げられた「男性像」「女性像」による性別

社会で期待されている（又は担っている）役割や立場の違い

男性と女性で異なる災害の影響

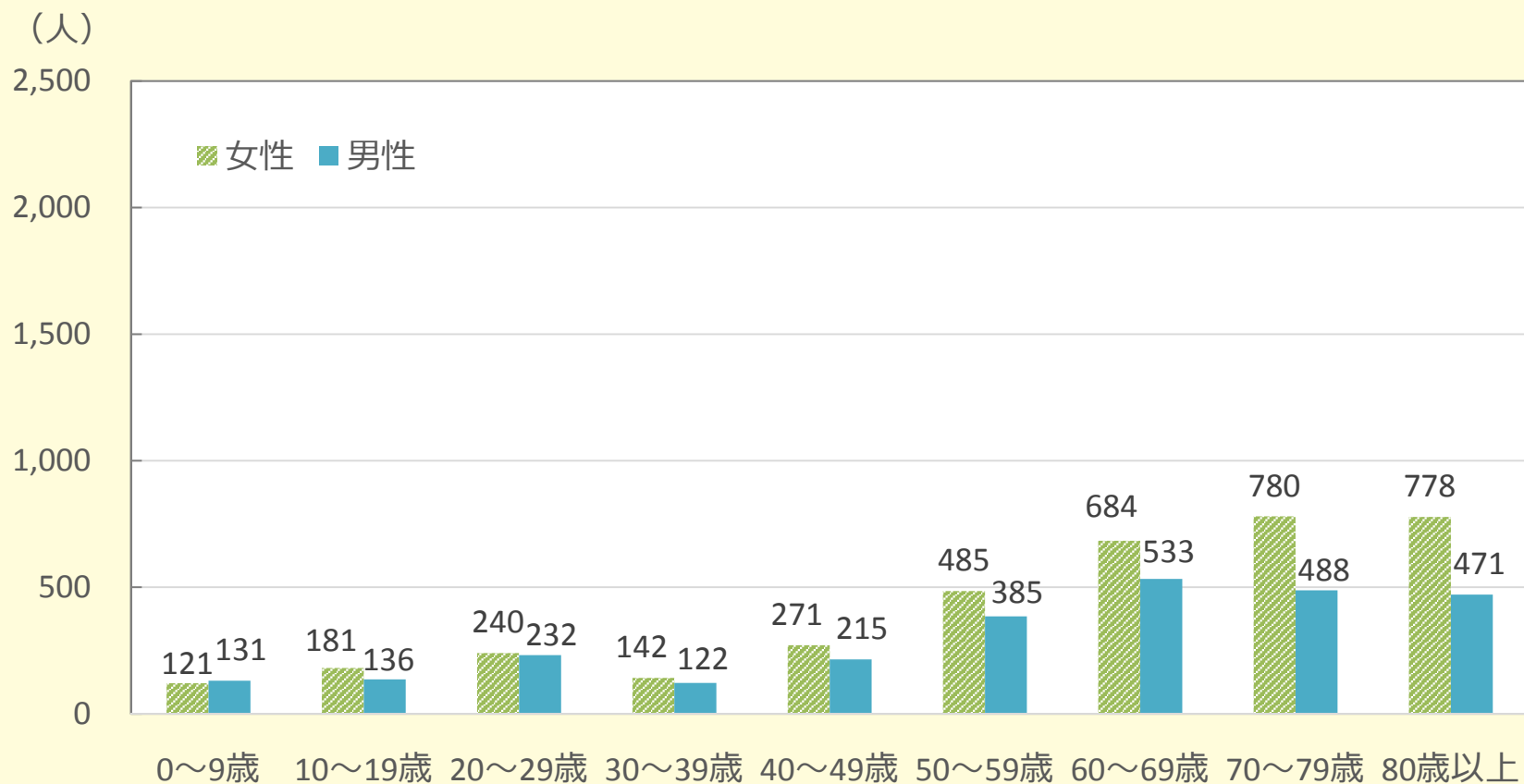
(例)

- 女性の死者が男性を上回る
- 男性に比べて女性は災害後の雇用状況や健康状況が厳しい
- 女性の方が避難所生活で不便を感じる（生活環境、暴力など）

抱える困難と支援ニーズも男性と女性で異なる

参考データ 阪神・淡路大震災の男女別・年齢階層別死者数

阪神・淡路大震災における兵庫県の死者数は
女性は男性に比べ約1,000人多く、約**1.4**倍であった

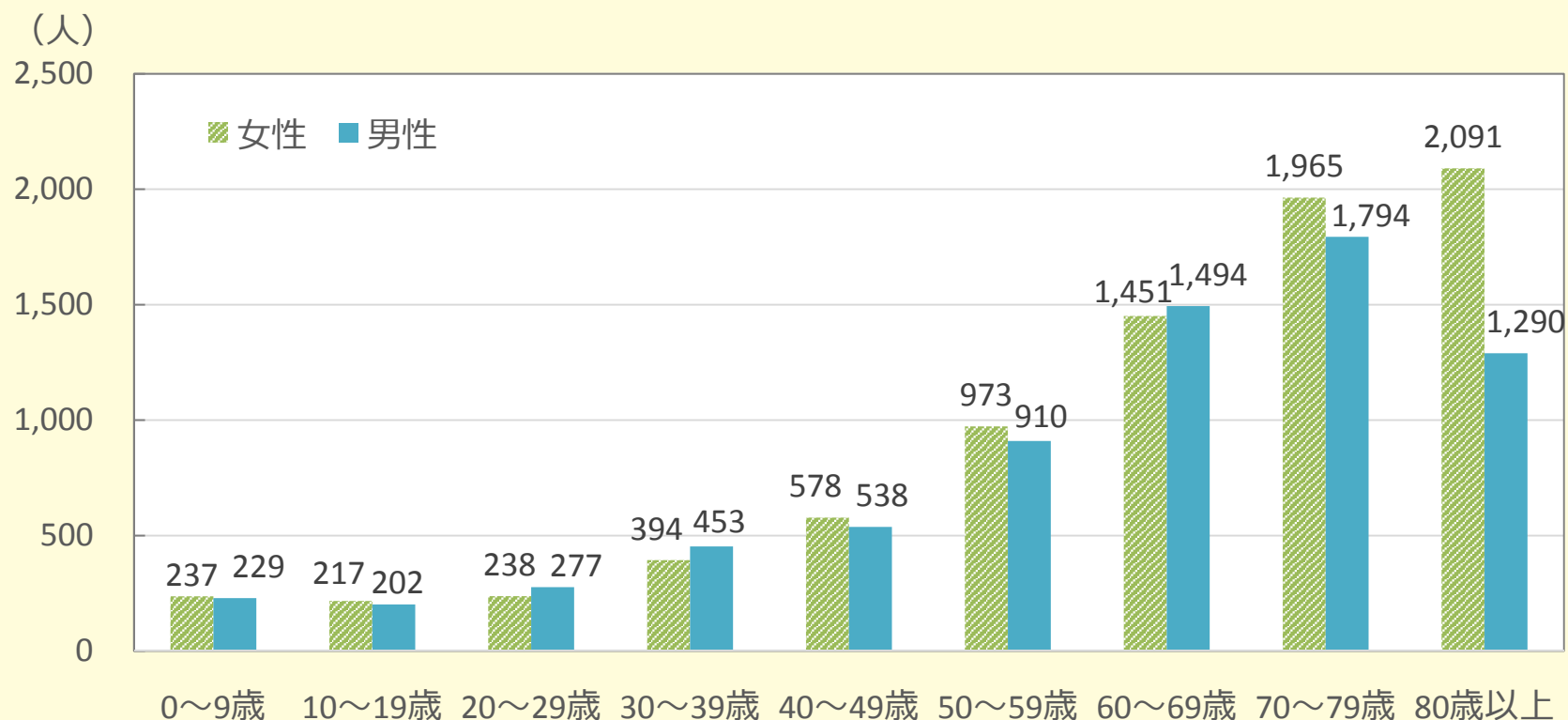


- (備考) 1. 兵庫県「阪神・淡路大震災の死者にかかる調査について」(平成17年)より作成。
2. 性別不詳, 年齢不詳は除く。

出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

参考データ 東日本大震災の男女別・年齢階層別死者数

東日本大震災における岩手県、宮城県及び福島県における死者数は**女性**が男性より**1,000**人程度多く、**高齢者**で男女の差が大きくなっている



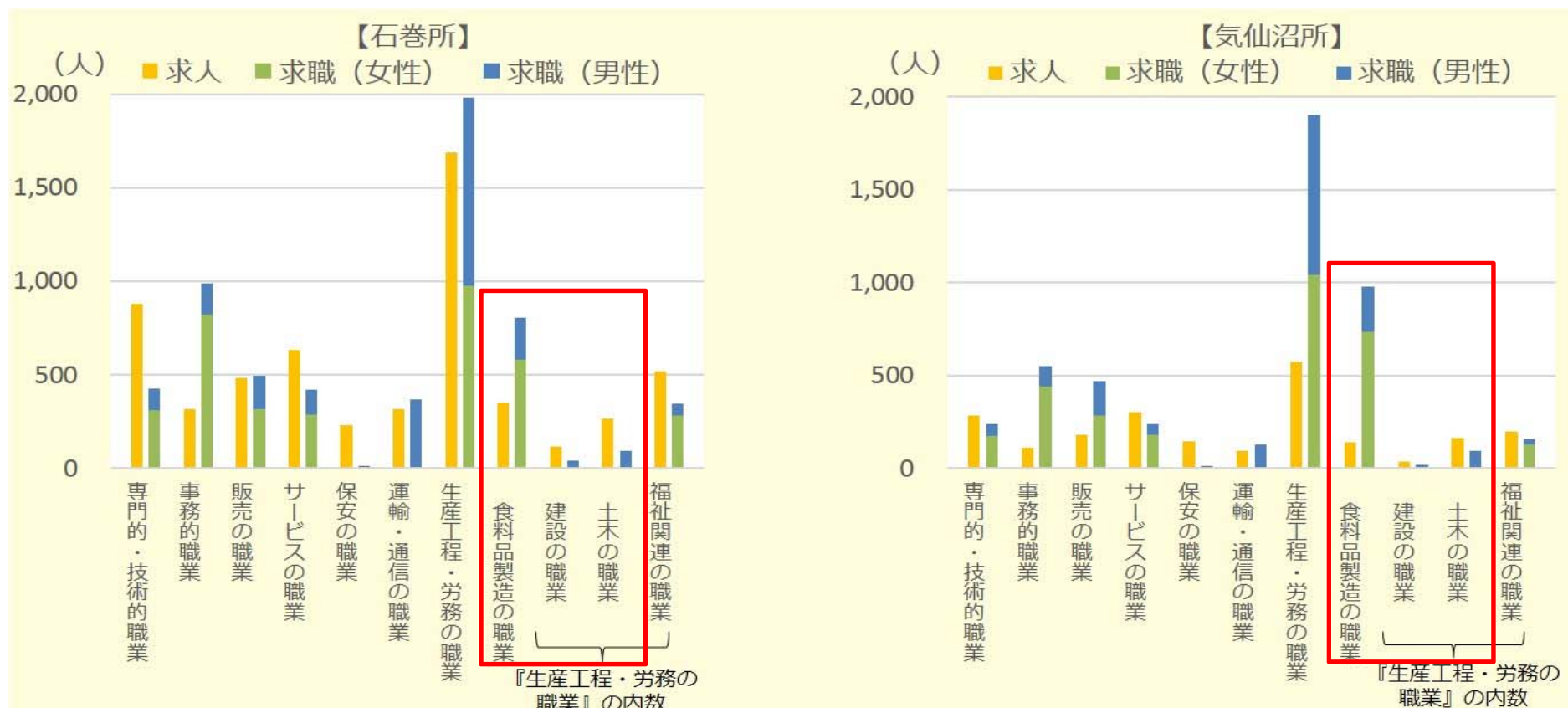
- (備考) 1. 警察庁「東北地方太平洋沖地震による死者の死因等について【23.3.11～24.3.11】」より作成。
2. 性別不詳、年齢不詳は除く。

出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

参考データ 東日本大震災後の雇用における男女の状況

女性の求職者数が比較的多い**食料品製造**の職業で**求人倍率が低い**

建設・土木の職業等では求人件数が**求職者数を上回っている**上、
女性の**就職者数が極めて少ない**

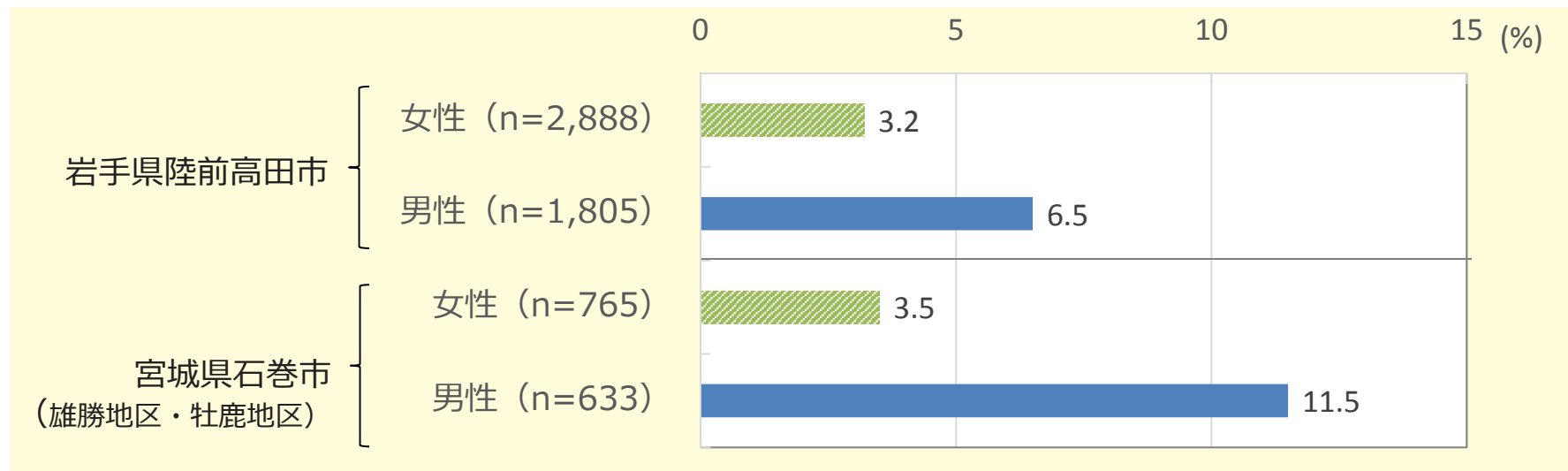


- (備考) 1. 厚生労働省「被災3県の現在の雇用状況(月次)(男女別)」(平成24年1月)より作成。
 2. 求人申込書における「性別」欄はないため、有効求人数の男女別はない。
 3. 「福祉関連の職業」は、他の職業区分の中から、「福祉関連」の職業を足し上げたもの。

出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

参考データ 東日本大震災後に飲酒量が増加した人の割合

震災前後の成人の飲酒量は、全体として変化のない者が多いが
陸前高田市、石巻市ともに、飲酒量が増加している者は、
女性が3%台であるのに対し、**男性は約7~12%**と高くなっている



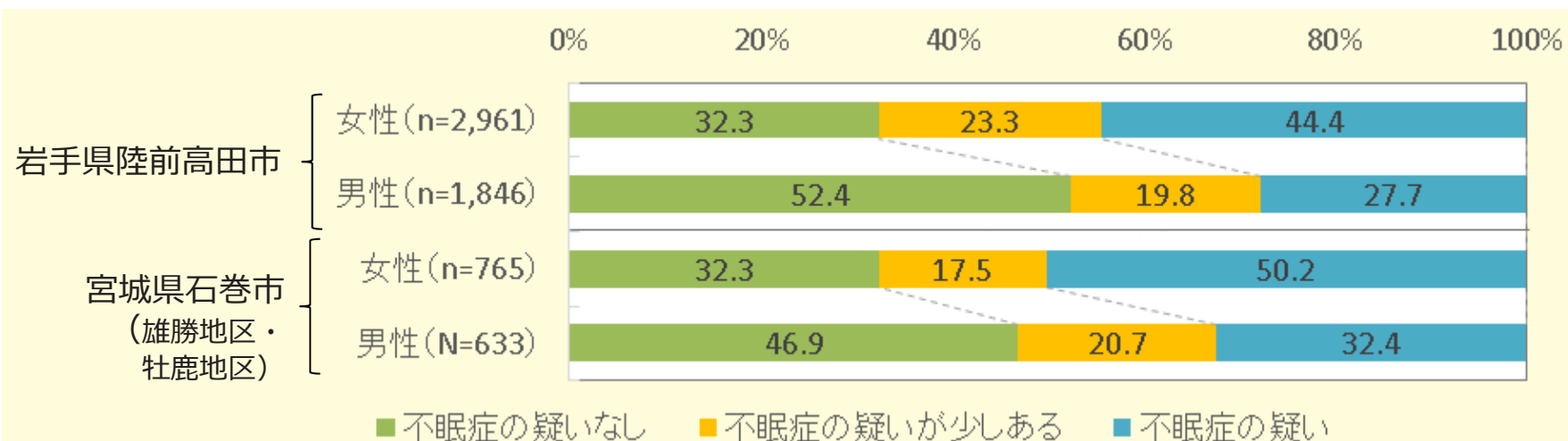
- (備考) 1. 厚生労働科学研究「東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査」研究班（研究代表者：林 謙治国立保健医療科学院長）資料より作成。
2. 東日本大震災の被災者を対象に、健康状態について長期間追跡調査を行うもので、健康診査を受診し、アンケート調査に回答した18歳以上の人（ただし、飲酒量に関する設問は20歳以上）が集計対象である。
3. 震災前と震災後の1週間当たりの飲酒量を尋ね、震災前に比べて飲酒量が増えた人の割合である。
4. 岩手県陸前高田市は、研究分担者である岩手医科大学坂田清美教授による男女別集計結果より作成。調査時期は平成23年10～12月。
5. 宮城県石巻市（雄勝地区・牡鹿地区）は、研究分担者である東北大学辻一郎教授による男女別集計結果より作成。調査時期は平成23年6～8月。

参考データ 東日本大震災後の睡眠に関する状態

震災後、睡眠障害が強く疑われる者は

陸前高田市では、女性44.4%、男性27.7%

石巻市では、女性50.2%、男性32.4% となっている

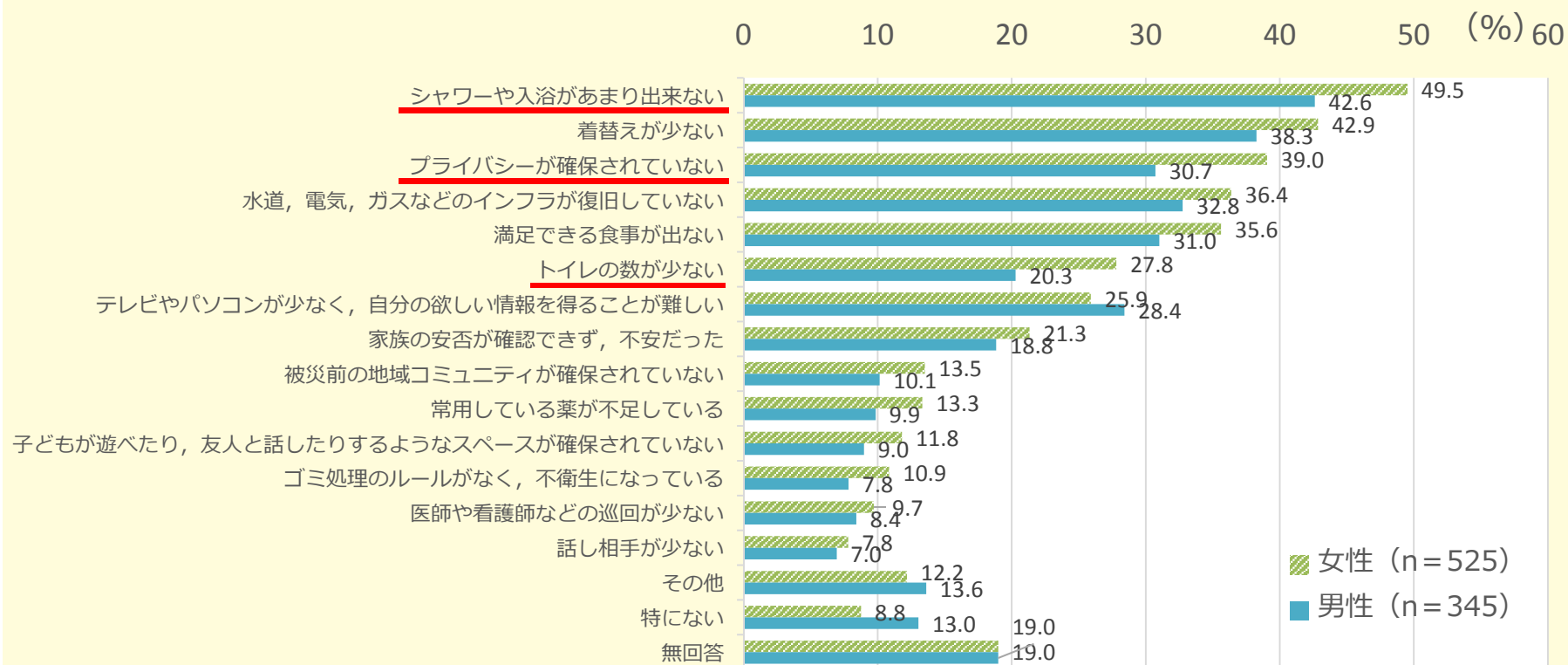


- (備考) 1. 厚生労働科学研究「東日本大震災被災者の健康状態等に関する調査」研究班（研究代表者：林 謙治国立保健医療科学院長）資料より作成。
2. 東日本大震災の被災者を対象に、健康状態について長期間追跡調査を行うもので、健康診査を受診し、アンケート調査に回答した18歳以上の人が集計対象である。
3. 岩手県陸前高田市は、研究分担者である岩手医科大学坂田清美教授による男女別集計結果より作成。調査時期は平成23年10～12月。
4. 宮城県石巻市（雄勝地区・牡鹿地区）は、研究分担者である東北大学辻一郎教授による男女別集計結果より作成。調査時期は平成23年6～8月。
5. WHO（世界保健機関）が中心となって設立した「睡眠と健康に関する世界プロジェクト」が作成した不眠症判定法（アテネ不眠尺度）に基づき調査した結果。回答者は、睡眠に関する8つの問について過去1か月間の状況に基づいて回答し、その合計点数によって不眠症の度合いを判断する（0～3点：不眠症の疑いなし、4～5点：不眠症の疑いが少しある、6点以上：不眠症の疑い）。

出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

参考データ 東日本大震災直後からの避難所での生活

震災直後からの避難所での生活について困っていることとして、
女性は「シャワーや入浴があまり出来ない」「プライバシーが確保」
されていない」「トイレの数が少ない」の割合が男性に比べて高
 くなっている

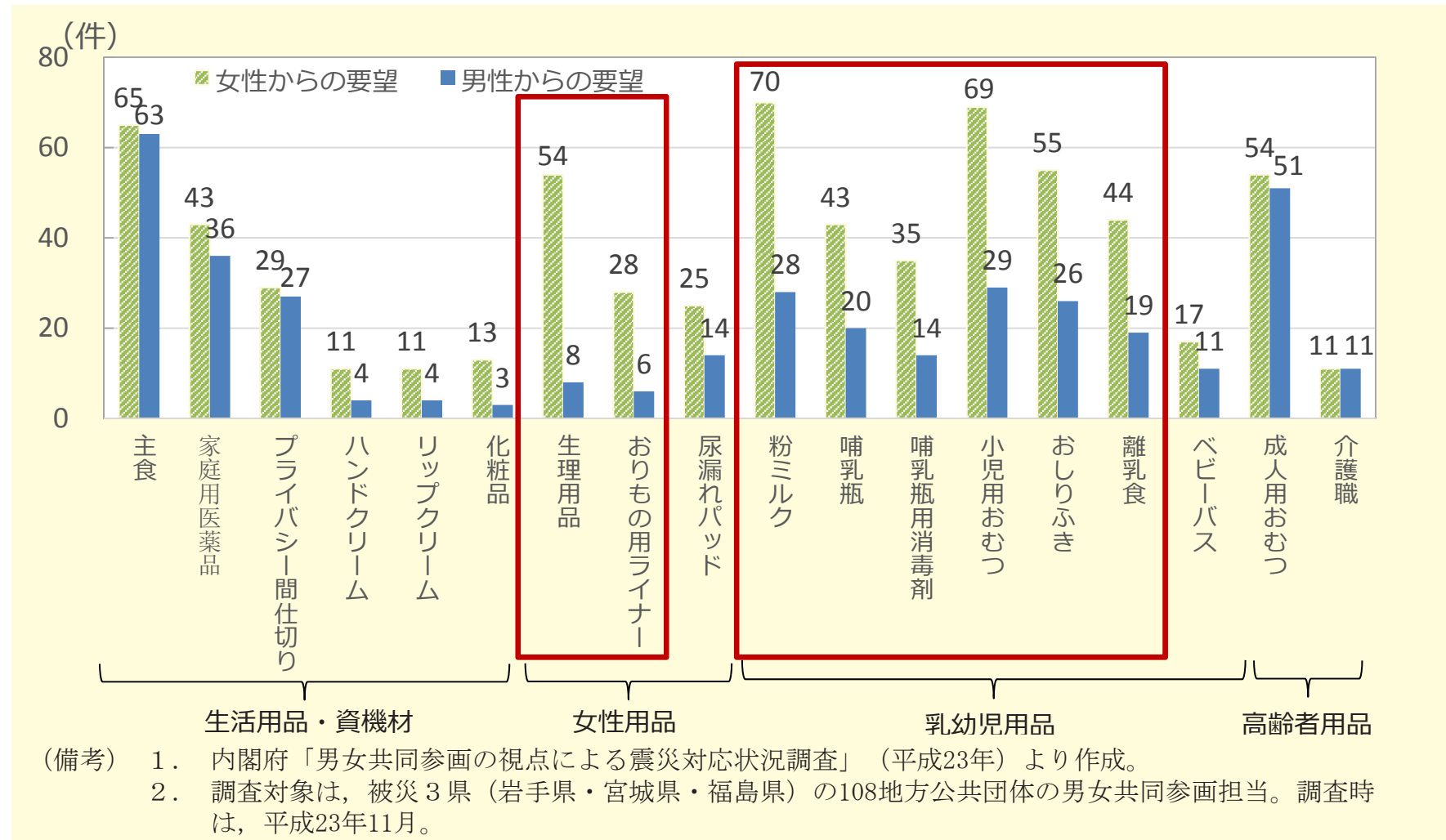


- (備考) 1. 内閣府・消防庁・気象庁共同調査「津波避難等に関する調査」(平成23年)を基に、内閣府男女共同参画局による男女別集計。
 2. 調査対象は、岩手県、宮城県及び福島県の沿岸地域で県内避難をしている被災者870人(女性525人、男性345人)。調査は、仮設住宅・避難所を訪問し、面接方式で実施。
 3. 調査時期は、平成23年7月上旬から下旬。

出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

男性と女性で異なる 災害時の支援ニーズ

東日本大震災時、**女性用品**の他に、**粉ミルク**、**小児用おむつ**、**おしりふき**、**離乳食**等の**乳幼児用品**について、女性からの要望が多くなっていた。



出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

東日本大震災時に女性が抱えた困難 | 女性たちの声

物資をもらうにも、
小さな子どもたちを
抱えていかなければ
ならず、大変だった
(シングルマザー)

避難所で、夜になると男の
人が毛布の中に入って
くる。・・・周りの女性も
「若いから仕方ないね」と
見て見ぬふりをして助けて
くれない (20代女性)

避難所の威圧的な空気
の中で、女性や立場の弱い
人々が要望を出したり、
発言するのは難しい

車と仕事を流された失業保険は
延長されたが、もともとの給料
が低いので暮らしていけな
かった。女性には仕事が無
かった。がれき処理は男性
向けだった。
(シングルマザー)

DVで離婚調停中の夫が
避難所に探しに来て、気持
ちが落ち着かなかった。

自分も友達も生理用品が
無い事に困った。トイレ
トペーパーを使うしか無
かった (10代女性)

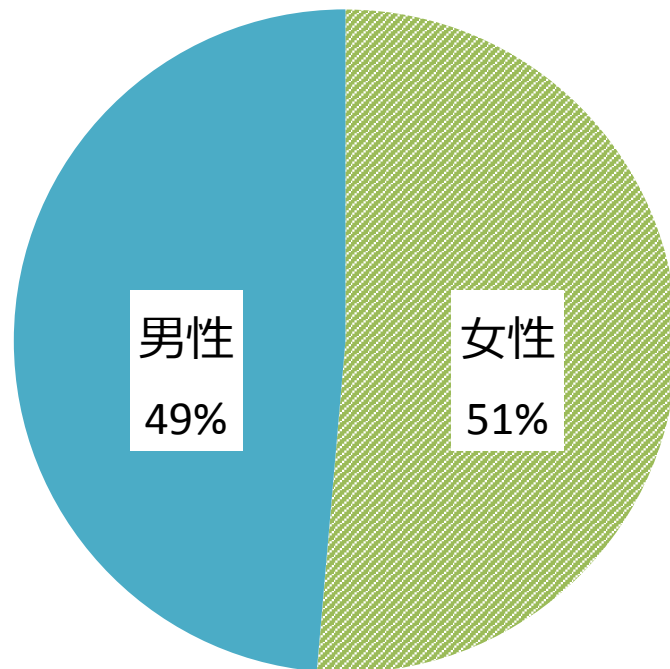
市の窓口には女性の人
は滅多にいなかった。男
性が配ったり、周りに男
性がたくさんいる中で支
援物資の生理用品を受け
取りに行くのが恥ずかし
かった (10代女性)

出典：

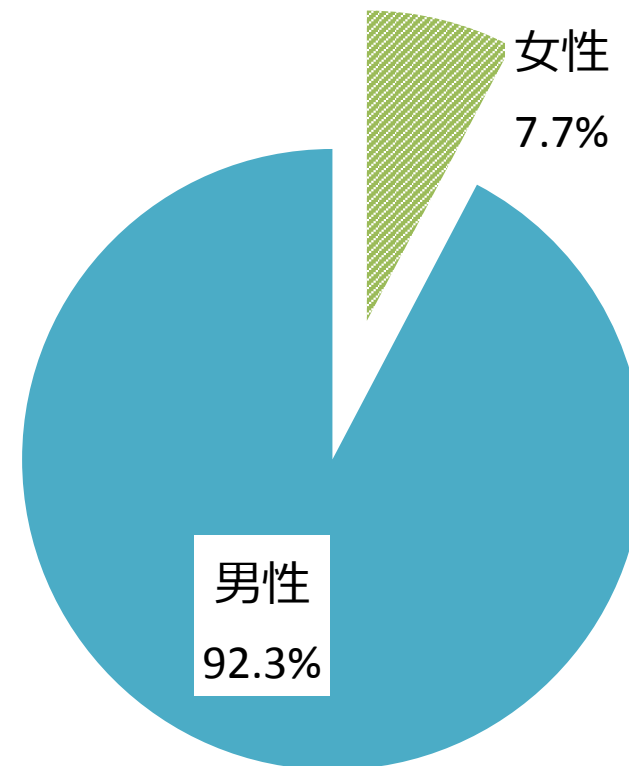
『東日本大震災における支援活動の経験に関する調査』 東日本大震災女性支援ネットワーク 調査チーム
「聞き取り集：40人の女性たちが語る東日本大震災」イコールネット仙台
『東日本大震災；被災地の若年女性調査と提言 Tohoku Girls' Voices』 オックスファム・ジャパン

防災に関する意思決定の場は男性が中心

日本の人口割合



市区町村防災会議の委員に占める割合

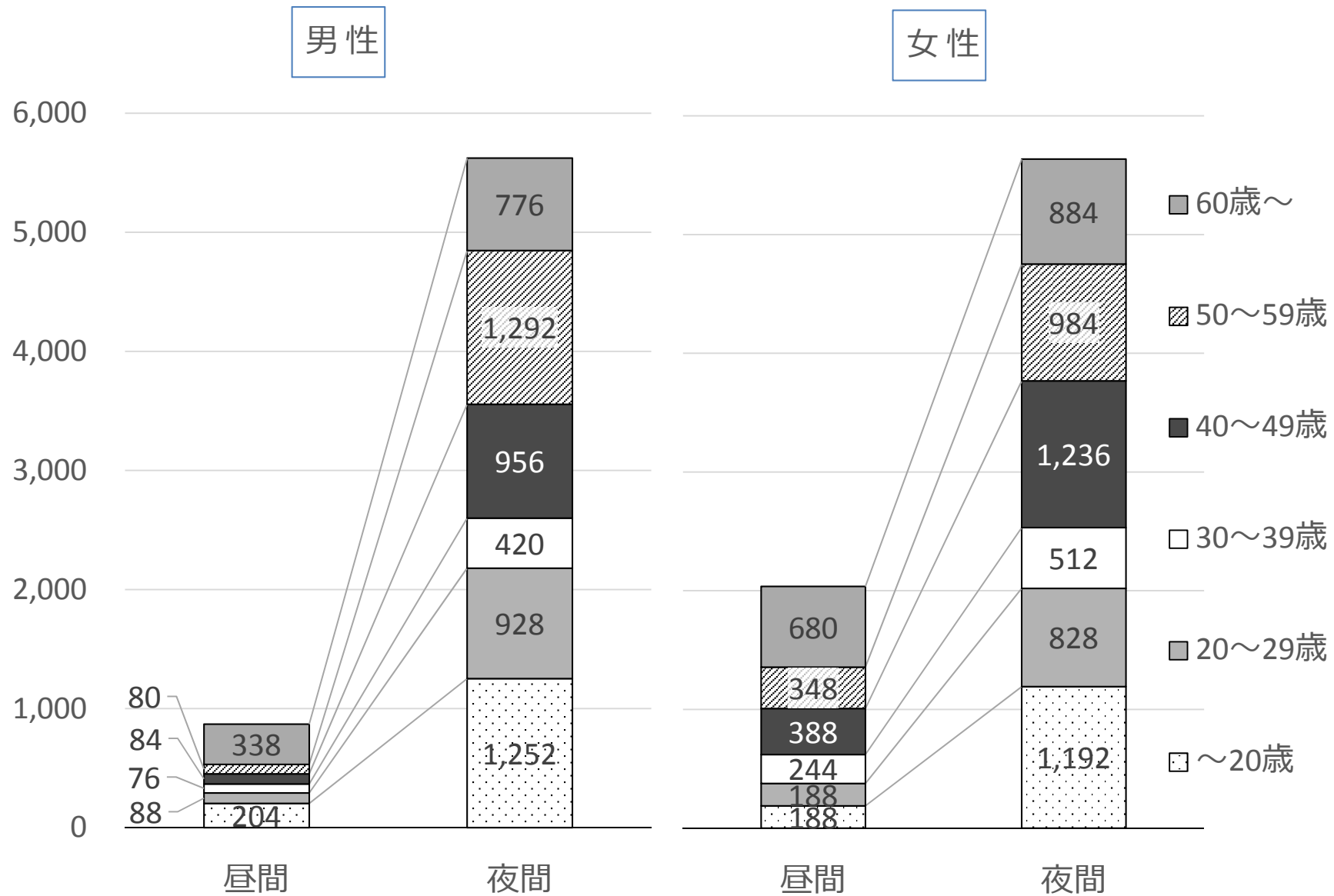


出典：内閣府男女共同参画局調べ（平成27年4月時点）

日頃の防災活動も男性が中心 | ある市での防災訓練の風景



昼間と夜間で人口構成が異なる | ある市の場合



備考：総務省統計局「平成22年国勢調査」及び株式会社日本統計センター「推計昼間人口データ2010」より内閣府男女共同参画局が作成

災害に強い地域社会を作るには

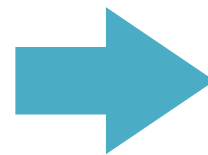
災害リスク軽減（Disaster Risk Reduction = DRR）

「災害にどう対応するか」のノウハウでなく、
「どうやって災害のリスク（被害）を最小限にするか」
を考える

これからの防災

- ✓ 「共助」を機能させるため、地域の防災活動に男女が共に参画する
- ✓ 「公助」を機能させるため、行政が男女共同参画の視点を持った施策を行う
- ✓ 女性の意見を反映させるため、防災に係る政策・方針決定過程に女性が参画する

男性中心型の
防災



男女共同参画の
視点からの防災

防災基本計画（平成28年2月中央防災会議決定）

第1編 第3章 防災をめぐる社会構造の変化と対応

地域における生活者の多様な視点を反映した防災対策の実施により地域の防災力向上を図るため、地方防災会議の委員への任命など、防災に関する政策・方針決定過程及び防災の現場における女性や高齢者、障害者などの参画を拡大し、男女共同参画その他の多様な視点を取り入れた防災体制を確立する必要がある。

第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月25日閣議決定）

第11分野 男女共同参画の視点に立った防災・復興体制の確立

1 防災分野における女性の参画拡大など男女共同参画の推進

地域における生活者の多様な視点を反映した防災対策の実施により地域の防災力向上を図るため、防災（予防、応急、復旧・復興のそれぞれの段階を含む）に関する政策・方針決定過程及び防災の現場における女性の参画を拡大し、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制を確立する。

男女共同参画の視点からの防災研修

座学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

セッション2の進め方

- 1 個人でシチュエーションシートを読む。
- 2 グループで
「1年前に戻ることができたら、地域の対策として、行政は何をしておくとおよいか」を話し合う。
- 3 全体で話し合った内容を共有する。
- 4 講師が「気になるワード」「対策のポイント」を説明し、「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」及び「解説・事例集」を用いて解説する。

話し合いのルール

平等

全員が発言する。
時間を独り占めしない。

安全

他人の意見を否定・批判しない。

自由

個人の立場で自由に発想する。

グループで話し合い

もしも1年前に戻ることができたら、
この地域の対策として、
行政は何をしておくとよいでしょうか。

津波①

- ある平日の午後2時、あなたが自宅にいるときに、立ってられないほどの大きな地震がありました。以前に「津波が25分後に到達する」という話を聞いたことを思い出し、すぐに避難しようと外に出ました。
- 外に出ると、血相を変えて「子どもを小学校に迎えに行きます！」と走っていく女の人がありました。
- 1歳くらいの子どもを連れたお腹の大きい妊婦さんがおろおろしていて、「私はどうしたらよいのでしょうか」とあなたに声をかけてきました。

津波②

- あなたは、その妊婦さんと一緒に、近くの高台に向かいました。
- 途中で保育所の前を通ると、保育士がお散歩車に子どもを乗せていました。大声で泣いている子どももいました。
高台に向かう道路は、信号もとまり車や人で大混雑していて、保育士たちはどうやって安全に避難するか話し合っていました。
- 高台につくと、他にもたくさんの方が集まっていました。
お年寄りや女性が大半でした。

気になるワード

「小学校に迎えに」 「子どもを連れてお腹の大きい妊婦」
「保育所」

対策のポイント

1. 性別、年齢等にかかわらず、多様な住民に対して、防災知識の普及や訓練を行っているか。
2. 平日昼間、夜間、休日等様々な条件を想定し、保育所、幼稚園、小・中・高等学校、大学等や、企業、自主防災組織等と連携し、男女が共に参画した防災訓練を定期的の実施しているか。
3. 妊産婦や乳幼児の安全で確実な避難のために、妊産婦や乳幼児の保護者等に対して防災知識の普及や訓練を行っているか。

解 説

取組指針 1 事前の備え・予防 (5) 防災知識の普及、訓練

災害への備えや、災害発生時における対応に関する学習機会等について、妊産婦や乳幼児の保護者はこれらへの参加が少ないことが考えられるため、保健所、子育て支援センター、保育所等と連携して防災知識や避難の具体的な方法等を知ってもらうことが必要。

また、防災訓練を実施する際は、平日、休日、昼間、夜間など様々な条件を想定し、保育所、学校、企業、自主防災組織等と連携して繰り返し実施することが必要。

取組指針 2 発災直後の対応 (1) 避難誘導の実施

妊産婦や乳幼児を連れた保護者は、避難に時間と支援を要することが多いため、関係機関、近隣住民等の協力を得て、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を行うことが必要。

こうした災害発生時の妊産婦及び乳幼児の避難対応について、保健所や子育て支援センター等を通じて、妊産婦や乳幼児を連れた保護者に対して、平常時から周知しておくことが必要。

男女共同参画の視点からの防災研修

座学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

地域の災害の特色

地域の防災における 男女共同参画推進の取組

セッション3の進め方

1 グループで「地域の防災対策の『課題』は何か」を話し合う

2 グループで
「男女共同参画の視点から考えて、『優先的な課題』は何か。
それらの課題について、「行政が実行すべき解決策は何か」
を話し合う。

3 全体で各グループで話し合ったことを発表・共有する

4 講師が参考となる取組事例を紹介する。

1. 地域の防災対策の「課題」は？
2. 男女共同参画の視点から考えて、
「優先的な課題」は？（複数可）
それらの課題について、
「行政が実行すべき解決策は？」
3. 発表タイム：各グループで話し合ったことを発表・共有しよう

男女共同参画の視点からの防災を実践するために

ポイント

1 防災に係る政策・方針決定過程への女性の参画を拡大する

2 防災に関する各種計画やマニュアルに男女共同参画の視点を反映する

3 防災を担う女性リーダーを育成し、女性リーダーが防災の現場で活躍できる環境を整備する

4 女性を含む多様な住民が、防災について繰り返し考える学習機会を提供する

男女共同参画の視点からの防災研修

座学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

【取組の概要】

- ・東日本大震災の教訓から、三島市地域防災計画の見直しや避難所運営を行う際に、**女性の視点での意見を反映させるために市長との意見交換会**を開催。
- ・意見交換会で得られた様々な意見を**地域防災計画に反映**させ、男女共同参画の視点からの**避難所運営マニュアルの作成**や**避難所用品の備蓄**、**母親向けの防災啓発講座**等を実施。

1. 避難所運営マニュアルの作成

- ・全ての避難所において、**平常時から女性専用の部屋を特定**
⇒女性用更衣室、専用スペース（授乳室・育児スペース）、女性用物干し場
- ・女性班を設置して、女性への配慮事項チェックシートを作成
- ・要配慮者・女性用の生活必需品物資リストの作成

2. 避難所用品の整備

一目でわかるピクトグラム（絵文字・図記号）等、女性・こどもに配慮したグッズを整備するとともに、**全ての避難所の防災倉庫・体育館において配備。**

3. 「ママが楽しく学ぶ防災講座」の実施

小さい子供を抱えた女性は一般の訓練・講座への参加が難しいことから、受講日を選択できるよう複数回開催するとともに、**託児を完備。**
防災クイズ、町中の危険箇所の確認、非常食の試食・料理などを実施。

【経緯】

東日本大震災（平成23年）

東日本大震災で生じた男女共同参画の視点からの課題を踏まえ、
危機管理担当職員が男女共同参画視点の重要性を強く認識
（*震災直後は、男性職員のみであったにもかかわらず）

女性の視点での意見交換会（平成24年～平成26年）

- ・ 市長とともに、女性に配慮した避難所マニュアル・運営をはじめとした防災対策全般に関する意見交換会を3回にわたり実施。
- ・ 女性消防団員、防災指導員、三島市開催の講座受講者、学生等、**多様な参加者から意見を聴取**

得られた意見は可能な限り全て対応！

男女別更衣室、女性専用スペースの設置とピクトグラム

- ・ 危機管理担当主導で更衣室や女性専用スペースを準備。
- ・ 意見交換会で報告、ピクトグラム等、**分かりやすい表示が必要との指摘**
- ・ **誰にでも一目でわかるピクトグラムを作成**

【取組のポイント】避難所用品の整備（ピクトグラム）



- ・ 絵と色でわかりやすく表示したピクトグラムを使用した部屋名表示マークを作成。
- ・ ビブスやアレルギー・マタニティマークはあらかじめ避難所に配備。
- *プライバシーに配慮し、女性専用の各スペースを設置。

【取組のポイント】

意見交換会の実施

男女共同参画の視点からの防災施策を検討するに当たり、女性の自治会役員やPTA役員、女性消防団員、防災指導員等、幅広い女性と意見交換。

- ・意見交換会開始時、**危機管理担当課には女性職員がいなかったが、東日本大震災での男女共同参画の視点からの課題を踏まえ、市の防災対策に男女共同参画の視点の導入方法を検討。**
- ・男女共同参画担当課、女性団体と連携して参加者の選出を実施。

取組後の対応

避難所に備品を設置した後、**実際に開所訓練を実施。**

⇒避難所の運営班に女性班や要配慮支援班を設置したことから、訓練には**女性も積極的に参加。**

訓練等で新たに見えてきた課題は、適宜対応。

男女共同参画の視点からの防災研修

座学

1 防災と男女共同参画

グループ
ワーク

2 男女共同参画の視点から具体的に考える

シチュエーションから考える行政の対策

3 男女共同参画の視点からの防災を実践する

地域の課題と行政が実行すべき解決策

全国の実践事例紹介

まとめ

4 まとめ

まとめ

男女共同参画の推進は
災害に強い地域社会づくりの具体的手段



防災施策に男女共同参画の視点が反映されるよう
関係者がその必要性を共有することが不可欠

災害対応は、地方公共団体の全職員が対応することが必要となるため、日常的に、あらゆる場と機会を活用して、職員の理解を深めることが必要。